

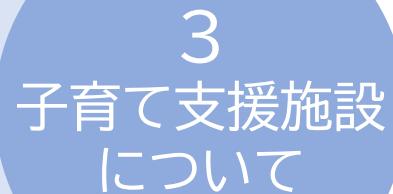
# 姫路市すこやかセンターのあり方検討について ～第2回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会～

令和7年12月22日開催

1



第1回懇話会について



# 懇話会の進め方について

・姫路市すこやかセンターあり方検討懇話会では、以下の点についてご意見を伺いたいと考えています。

## すこやかセンターあり方検討懇話会(全3回)

- すこやかセンターの運営状況に関する課題
- 当初のコンセプトである「多くの市民に利用してもらうことによって、多世代間のふれあいの場として活用」として機能しているか
- すこやかセンターが市の目指すべき「創造と交流を生む施設」の機能を果たしているか
- すこやかセンターの事業効果がライフ・サイクル・コストに対して、適正か
- 少子高齢化が急激に進む中、本市の重視する「介護予防費の抑制効果」が十分に発揮されているか
- 仮に代替策により事業を実施した場合、すこやかセンターを維持することとどちらが効果的か



委員の皆さまから頂いた意見を踏まえ、市の今後の施設の方向性を決定する予定です。



# 懇話会の進め方について

ライフサイクルコストや利用状況など市が行った現状分析の結果を説明し、次に各階の機能が異なることから、1階部分から順にご議論いただけます。



1

現状分析

第1回

- ・施設改修時のライフサイクルコストの試算
- ・各階の利用状況等の分析

2

3階 子育て支援施設

第2回

2階 老人福祉センター

第1回

1階 健康づくり施設

2



老人福祉センター事業  
について

# 老人福祉センターとは

- 高齢者の方々の各種相談に応じるとともに、健康の増進や介護予防、社会参加の促進や教養の向上などにつながる各種事業、レクリエーション活動等を総合的に提供する施設。
- 老人クラブの運営に関する援助も事業の一つである（老人福祉センター設置運営要綱）  
⇒老人福祉法において、老人クラブに対し、地方公共団体は援助につとめるよう定められている。

## ■ 老人福祉センター、老人クラブの役割

### 生きがい づくり

趣味活動やボランティア活動などを通じて、生活の充実感や役割を持つ場を提供する

### 社会参加 孤独孤立防止

交流の場や地域に密着した活動を行う中で、高齢者同士や高齢者が地域とつながりを持つ機会を増やし、孤独孤立感を防ぐ

### 健康の 維持・増進

健康づくりや介護予防活動を通じて健康寿命の延伸、医療費・介護予防費の抑制

- 本市の老人福祉センターはすこやかセンター（平成14年（2002年）4月30日開設）、楽寿園（昭和58年（1983年）7月5日開設、平成30年（2020年）4月23日リニューアル）の2か所。また、老人福祉支援施設として、夢前福祉センター（平成19年（2007年）6月25日開設）がある。

# すこやかセンターの抱える課題

## ■ 本市の現状の施策展開の課題

本市では、すこやかセンターをはじめとする老人福祉センターでの活動を中心に、地域でも施策展開を進めているが、センターを中心とした高齢者の生きがいづくり支援については、課題が生じている。

	実利用者数 (推計)
一般登園(個人) 囲碁・将棋、カラオケ、図書利用等	約300人
一般登園(団体) ダンス・音楽等のサークル活動	約500人



実利用者数は、  
60歳以上人口の0.46%  
利用者は限定的である

	H22 (2010)	R6 (2024)
老人クラブ会員数	54,375人	30,303人
校区登園利用者	12,941人	7,114人



会員数、校区登園利用者ともに、毎年、減少しており、  
すこやかセンターでの活動が老人クラブの活性化に十分に繋がっていない

※老人クラブ会員数は、各年度4月1日現在

通いの場は、身近な場所にあることで、地域の支え合いの仕組みが醸成され、孤独・孤立予防に寄与する。また、介護予防だけでなく、地域力を高める拠点でもある（通いの場の課題解決に向けたマニュアルより）。



利用者が限定的であるすこやかセンターでは、通いの場に求められる機能を発揮できていない

高齢者の生きがいづくりを通じて、介護予防の推進に寄与することが施設の役割とすると、  
健康づくり施設と同様に有用性や効果性の観点から、十分ではないといえる

# 本市の抱える課題



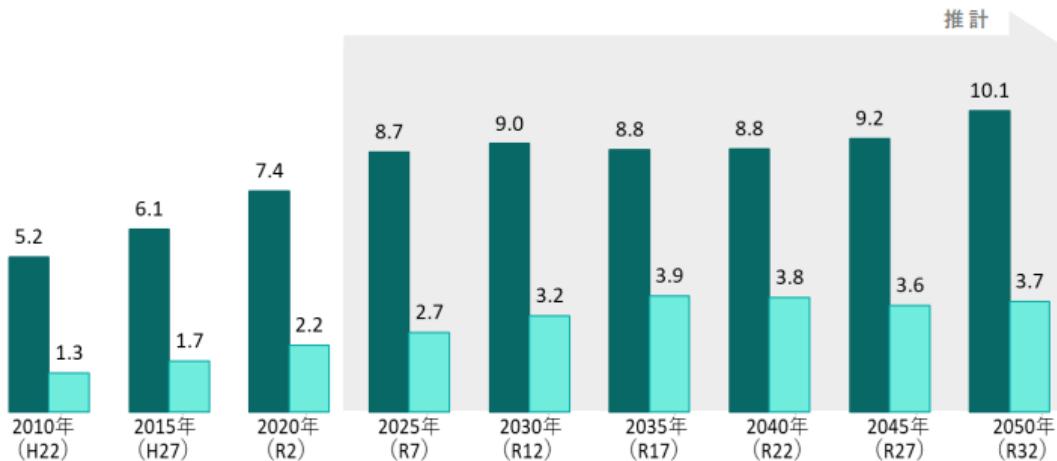
単位：万人

- 15歳未満
- 15~64歳
- 65歳以上
- 年齢不詳

人口増減 (2023年 → 2050年)		
総数	- 9万人	(- 17%)
65歳以上	+ 1.8万人	(+ 12.5%)
15~64歳	- 8.7万人	(- 27.5%)
15歳未満	- 2.1万人	(- 31.8%)

注 数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

出典 姫路市版「地域の未来予測」



単位：万人

- 75歳以上
- うち85歳以上

出典 姫路市版「地域の未来予測」

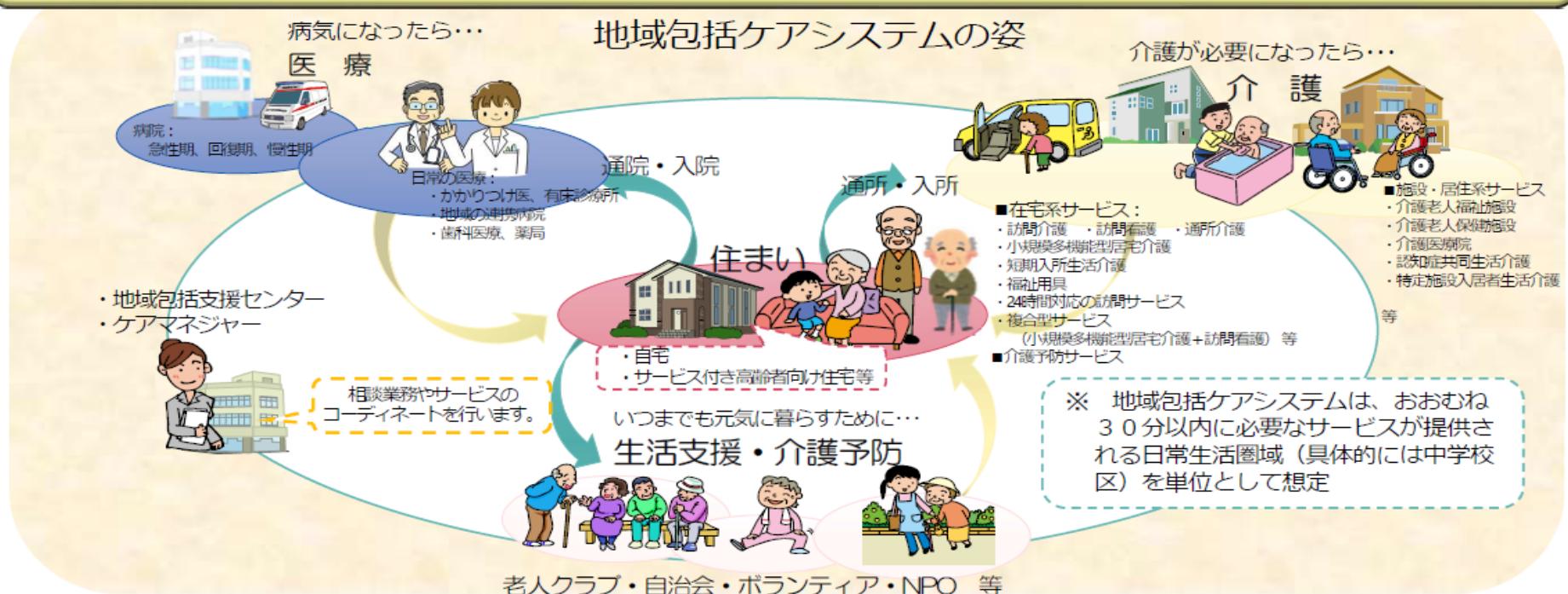
今後、生産年齢人口が減少する中、要介護リスクの高い85歳以上人口は、2035年をピークに増加する。「持続可能な介護保険制度」を実現するには、限られた高齢者への生きがいづくり支援から、より多くの高齢者が、住み慣れた身近な地域でつながり、生きがいを感じる社会の実現へ施策を転換していく必要がある。

「高齢者が住み慣れた地域で生きがいを感じながら  
健やかに暮らせる姫路の実現」にむけて

# 1 地域包括ケアシステムとは

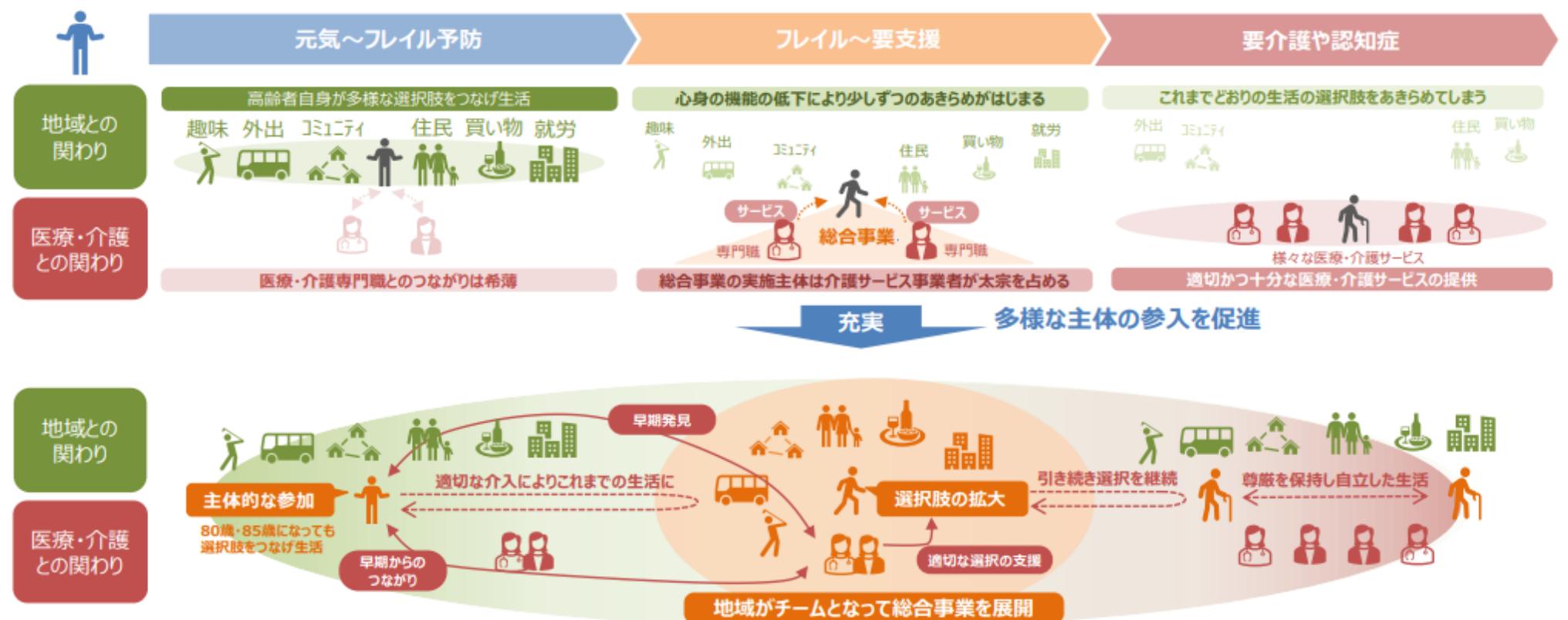
## 地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)**の構築を実現。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**。



## 2 高齢者や多様な主体の参画を通じた地域共生社会の実現・地域の活性化

- 高齢者の地域での生活は、医療・介護専門職との関わりのみならず、地域の住民や産業との関わりの中で成立するもの。また、高齢者自身も多様な主体の一員となり、地域社会は形作られている。
- 総合事業の充実とは、こうした地域のつながりの中で、地域住民の主体的な活動や地域の多様な主体の参入を促進し、医療・介護の専門職がそこに関わり合いながら、高齢者自身が適切に活動を選択できるようにするものである。
- 総合事業の充実を通じ、高齢者が元気なうちから地域社会や医療・介護専門職とつながり、そのつながりのもとで社会活動を続け、介護が必要となっても必要な支援を受けながら、住民一人ひとりが自分らしく暮らし続けられる「地域共生社会」の実現を目指していく。



### 3 住民主体の通いの場等の必要性

地域共生社会の実現に向けた地域づくりの取組は、介護予防の取組と重なる部分も多く、**高齢者**にとって多様で魅力的な通いの場等の介護予防の取組が必要



出典：厚生労働省一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会とりまとめ

## 4 通いの場への参加や運動プログラムの効果

- 短期集中的な運動介入では、その効果の持続は難しく、要介護の抑制効果も限定的となつた。
- 通いの場の形態としては、運動教室、食事会、茶話会、趣味活動など様々であり、いずれも要介護の抑制効果が認められた。
- ボランティア活動にも要介護抑制の効果が認められており、継続した社会参加などが要介護の予防に重要となると考えられた。
- 運動プログラムとしては、レジスタンス運動の要素を組み入れることで、身体機能向上、ADL向上、転倒予防などの効果が得られやすいことが示された。
- 運動プログラムは、総実施時間が25時間以上（概ね1年以内）となるように設定することで、各種アウトカムがより改善しやすい結果となった。

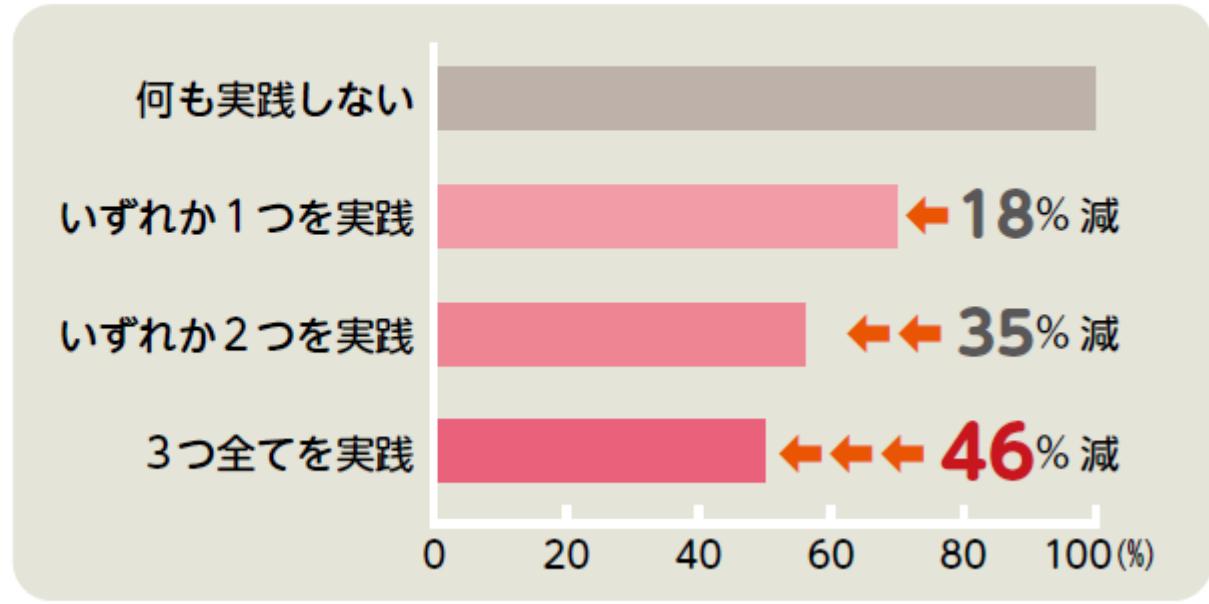
(出典：厚生労働省第3回一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会資料)

## 5 通いの場における多様なプログラムの必要性

(運動・栄養・社会参加：3つの実践が介護予防効果を高める)

- 運動 週150分以上の身体活動
- 栄養 多様な食品摂取
- 社会参加 週1回以上の対面／非対面交流

3つを実践すると  
要介護状態になるリスクを減らすことができます



通いの場を多様なプログラムで構成することは、マンネリ化を防ぐだけでなく、介護予防効果を高める。

出典：東京都健康長寿医療センター研究所「PDCAサイクルに沿った「通いの場」の取組を推進するための手引き」

## 6 本市の高齢者の状況

- 本市における65歳以上の高齢者は約14万4千人

＜内訳＞

約3万3千6百人（23.3%）が介護認定者（※1）

約3万7千人（25.7%）が就労者

残り約7万3千4百人（51%）が日常生活で自立し、又はMCI（軽度認知障害）（※2）

- 単身高齢者は、約2万5千7百人

※1 国の公表資料をもとに、本市の高齢者人口に当てはめて試算

※2 MCI（軽度認知障害）とは、健常者と認知症者の中間の状態で、1年で5～15%の方が認知症に移行するとされている

就労者	自立高齢者及びMCIなど	介護認定者
37,000人 25.7%	73,400人 51%	33,600人 23.3%
社会とのつながり	地域の人・資源とのつながりが希薄となるリスク	専門職とのつながり



軽度認知障害者、単身高齢者の介護リスクが高い

⇒ 身近なコミュニティにつなげるなど、効果的な介護予防の取組が重要

## 7 本市における通いの場の状況

活動拠点	活動内容	参加者	活動場所
いきいき百歳体操	おもりを使った筋力運動で、続けることによって筋力がつき、日常生活の体の動きが楽に行えるようになる体操「いきいき百歳体操」を住民主体の自主的なグループが高齢者が集まりやすい身近な場所で実施。	8,496人	計481か所 (公民館、集会所等)
認知症サロン	認知症であるかどうかに関わらず、地域の高齢者が自由に参加することができる地域住民が運営する通いの場。認知症サロンでは、高齢者同士又は高齢者と他の世代との交流を促進すること、高齢者が地域から孤立することを防ぐこと等により、認知症の早期発見や進行防止、介護予防を図る。	2,900人	計99か所 (公民館、集会所等)
老人クラブ	後述のとおり	28,786人	各校区、単位老人クラブ
ふれあい食事サービス	ひとり暮らし高齢者の食生活の改善と孤独感の解消のため、市内に居住する65歳以上の独居高齢者又はこれに準ずるものを作対象として、食事又は配食形式での食事サービスの提供を実施するもの（社会福祉協議会に委託）	5,046人	各校区

# 8 通いの場（いきいき百歳体操）

## 1 事業目的

高齢者の方が「住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らす」ことを目指す。

## 2 事業概要

介護予防、住民主体の通いの場の基盤として、地域包括支援センターと保健センターが協働し、「いきいき百歳体操」グループの育成・支援を実施している。「いきいき百歳体操」は、おもりを使った筋力運動で、続けることによって筋力がつき、日常生活の体の動きが楽に行えるようになる。身近な地域で集まって活動することで、仲間づくりや交流の場、支え合いの場にもなっている。現在、市内の公民館や集会所等の481箇所で行われている。



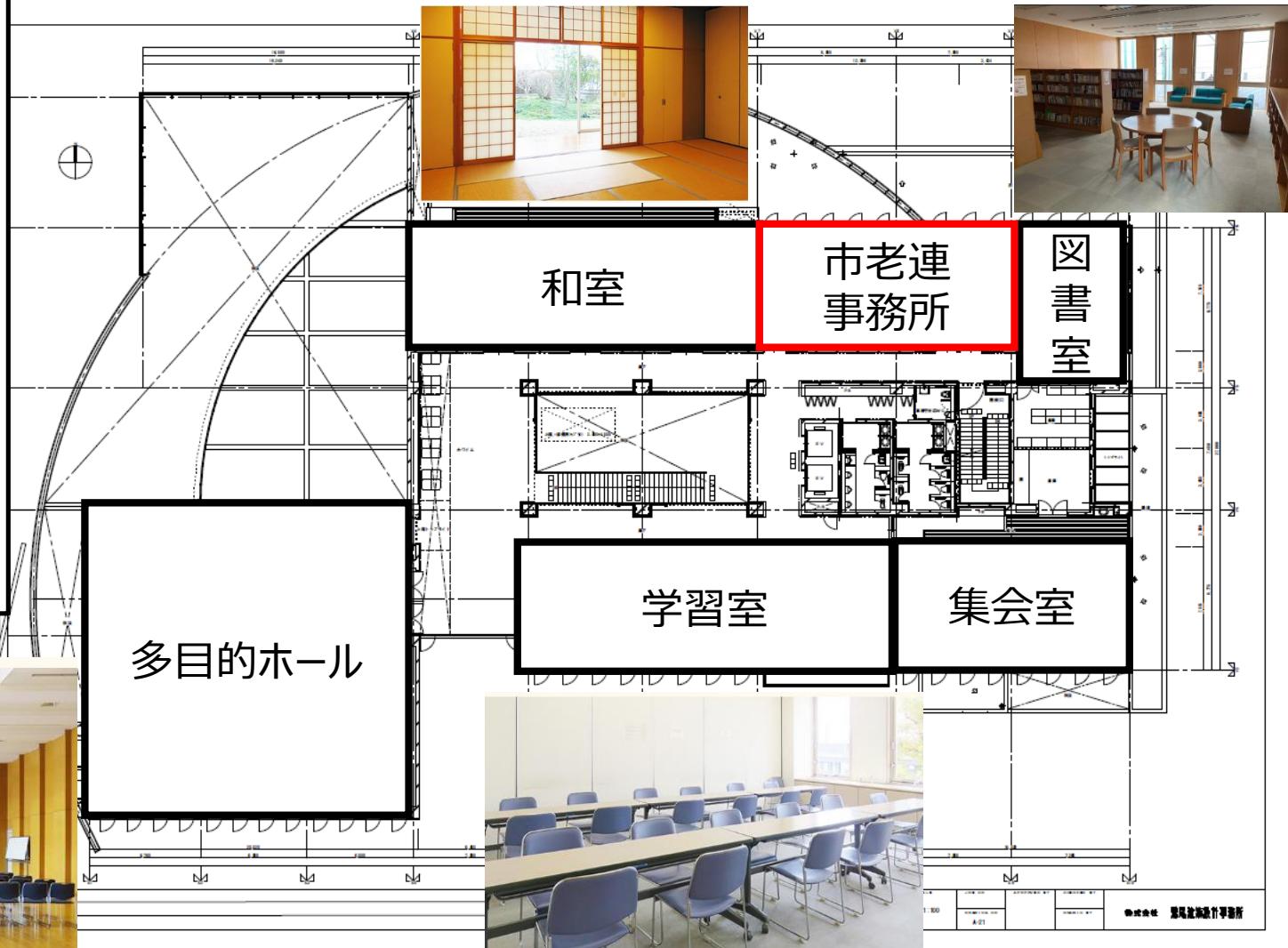
# 9 老人クラブの活動について

姫路市老人クラブ連合会の事務所があるすこやかセンター2階を拠点として、53校区で353の老人クラブが「高齢期を健康で心豊かに過ごし、周囲の仲間と共に地域社会に貢献する活動に取り組み、生きがいのある人生を送ること」を目標に活動



多目的ホール

(すこやかセンター 2 階)



# 10 老人クラブの活動について(すこやかセンター内)

(校区登園のスケジュール)

	曜日	9:30~10:10	10:15~10:45	10:45~14:00	14:00
すこやかセンター	月・金・土	教養講座	健康リズム体操	自由時間 カラオケ・いきいきグラウンド	バス到着予定時刻
	火		すっきり体操		
	木		呼吸法		

(校区登園・教養講座)



楽寿園	月	教養講座	ガンバルンバ体操	自由時間・カラオケ	バス到着予定時刻
	火(第1・3・5)		ストレッチ体操		
	火(第2・4)		あはは体操		
	木		音楽療法		
	金		健康コーラス		
	土		自由時間・カラオケ		

(校区登園・健康体操)



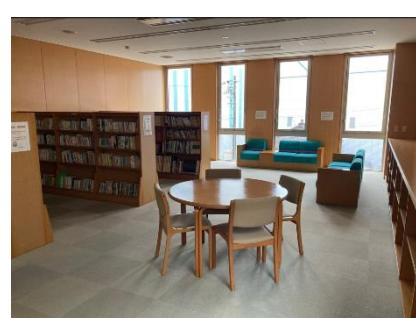
(ニュースポーツ大会)



(各種研修の実施)



(老人図書室)



(カラオケ大会)



# 11 老人クラブの活動について（すこやかセンター外）

(高齢者スポーツ大会)



健康

(歩こう会)



(友愛訪問)



友愛

(目標)

高齢期を健康で心  
豊かに過ごし、周  
囲の仲間と共に地  
域社会に貢献する  
活動に取り組み、  
生きがいのある人  
生を送る

(子供見守り活動)



奉仕

(美化活動)



# 12 老人クラブの活動一覧表

	事業	内容	時期
社会奉仕活動	SPC(シルバーパワークリーン)作戦	公共施設等の清掃	年2回
	子育て支援事業	地域で世代交流・子ども見守り(スクールヘルパー等)	通年
友愛訪問活動	友愛訪問	一人暮らし・寝たきり・虚弱会員を訪問	毎月
	慶祝事業	米寿・白寿会員訪問(お祝)	9月
健康増進事業	健康体操等 (校区登園)	体操・コーラス 等 (すこやかセンター・楽寿園)	通年
	シニアスポーツ講習会	ニュースポーツの普及・指導者養成	随時
	高齢者スポーツ大会(市委託)	グラウンドゴルフ・輪投の大会	10月
	ニュースポーツ大会	ビーンボウリング・ペタンクの大会	11月
	歩こう会	ブロック毎に実施	9~11月
文化教養事業	教養講座 (校区登園)	時事・社会・保健・栄養 など	通年
	老人図書室(市委託)	図書貸出業務(すこやかセンター)	通年
研修会	校区友愛部代表研修会	資質向上・友愛訪問の促進	6月
	ニューリーダー研修会	新任クラブ会長の資質向上	7月
	合同研修会	校区会長・友愛部代表の研修	9月
	シルバーサポート研修会	健康づくり・介護予防の指導的実践者を養成	9月~2月
	交通安全学習会	高齢者の事故減少を目指す	通年
広報活動	機関紙「熟年」発行	老人クラブ活動の紹介・啓発を趣旨	年3回
加入促進事業	姫路お城まつり参加	老人クラブ活動のPR	5月

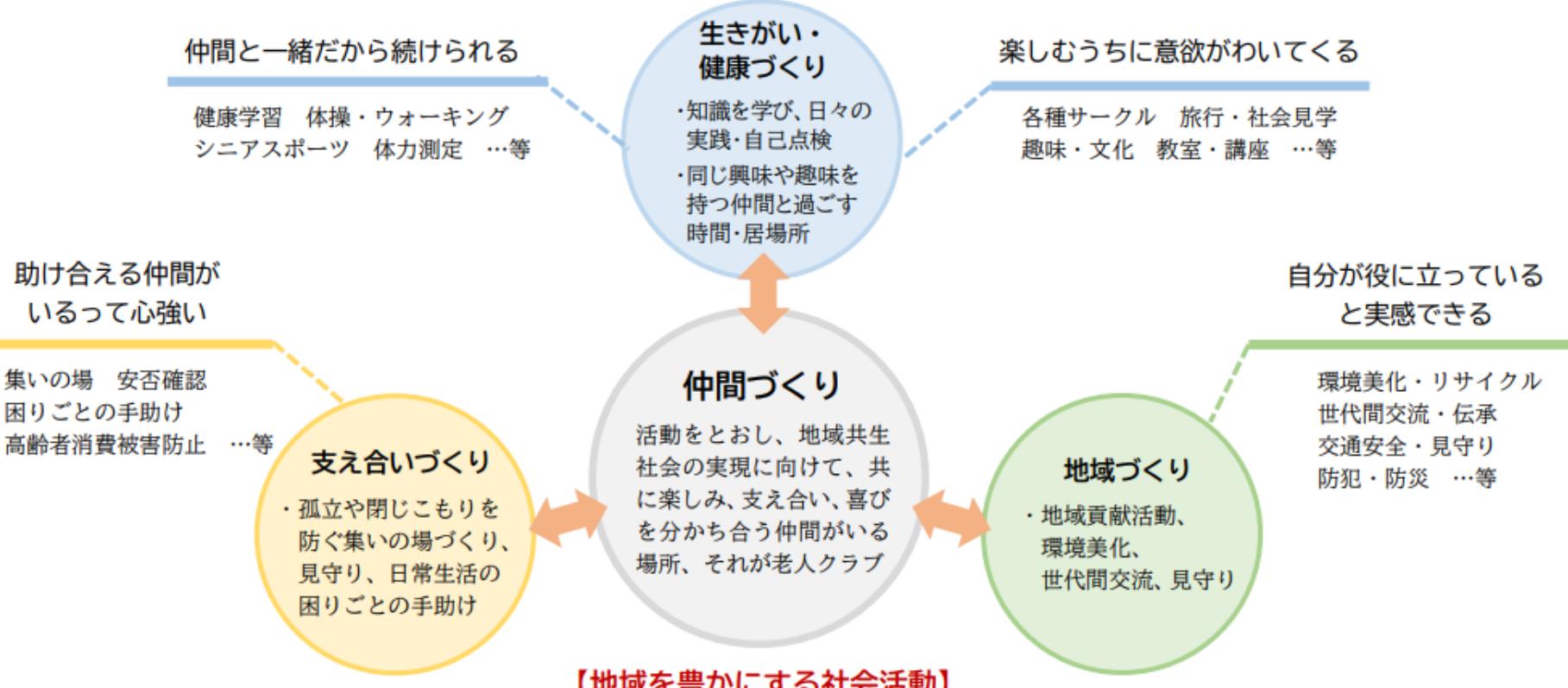
老人クラブの活動全てが介護予防に効果がある

# 13 老人クラブの活動の重要性

老人クラブにおける、他分野にわたる活動のイメージ

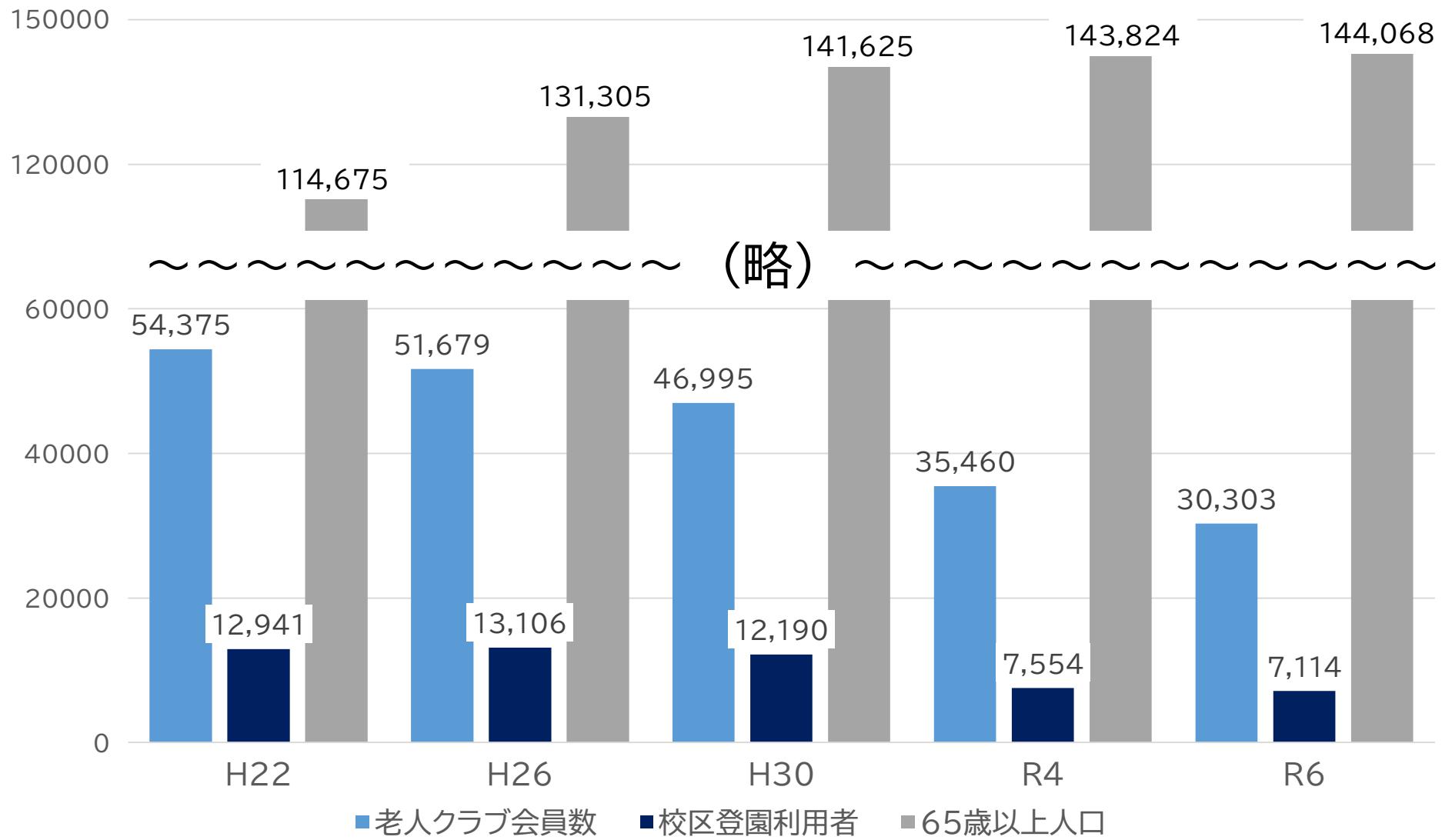
## 【生活を豊かにする楽しい活動】

出典：厚生労働省 令和6年度 老人保健健康増進等事業成果物  
「地域共生の推進に向けた老人クラブとの協働を目指して」



- 各クラブの会員の**生きがい・健康づくり**に加えて、**地域の高齢者の居場所づくり・孤立防止や、環境美化や防犯・防災、まちづくりなど多様な分野で貢献。**
- 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも生活できる環境を目指す**「地域包括ケア」**の取組においても老人クラブの存在は非常に重要で**地方自治体と老人クラブが連携を図ることで、高齢者福祉施策のより効果的な実施**が期待される
- 老人クラブは、元気な高齢者が集う団体として、今後、**地域における生活支援の担い手としての役割**が期待される。22

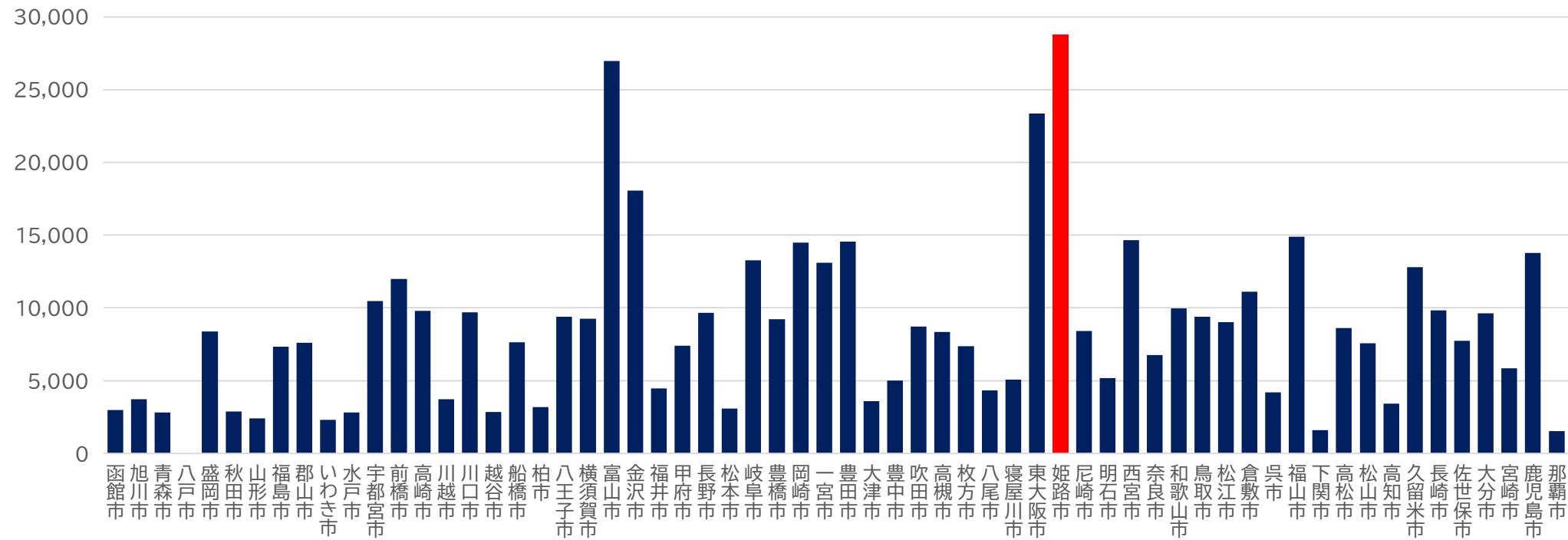
## 14 老人クラブの会員数について



平成22年をピークに老人クラブ会員数は減少しており、校区登園（すこやかセンター）についても参加人数が減少傾向にある。

# 15 老人クラブの会員数について(中核市比較)

## 中核市内での老人クラブ会員数比較



中核市での老人クラブ会員数を比較すると、姫路市が最も会員数が多い。

令和7年（2025年）4月1日時点での加入率16.59%は、中核市2位である。

（中核市平均は6.39%）

# 16-① 高齢者の社会参加（介護予防、孤立・孤独の防止）

## 2040年の社会のイメージ

多様化する  
家族と住まい方

家族介護を  
期待しない  
できない時代

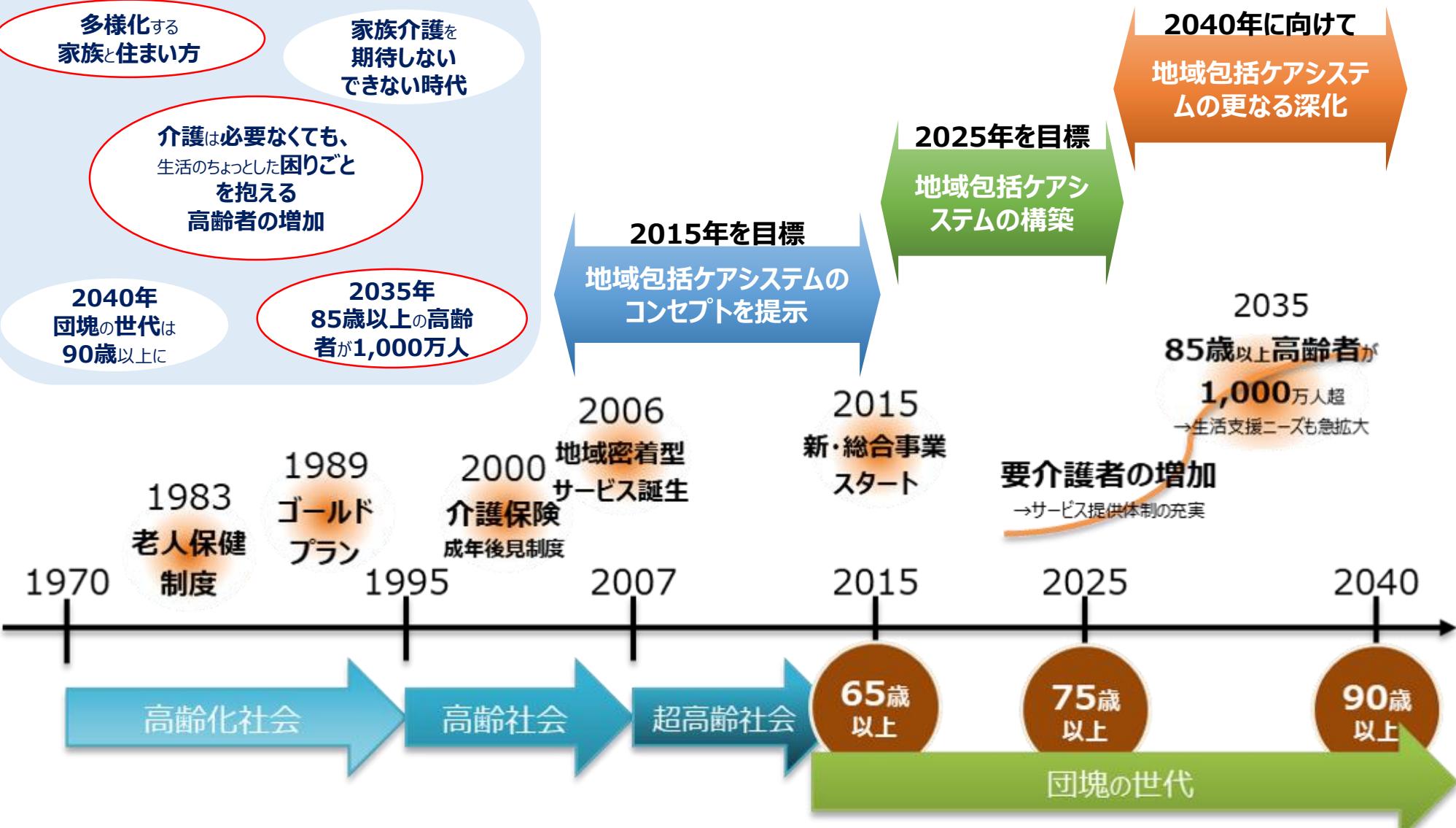
介護は必要なくても、  
生活のちょっとした困りごと  
を抱える  
高齢者の増加

2040年  
団塊の世代は  
90歳以上に

2035年  
85歳以上の高齢  
者が1,000万人

2025年目標  
地域包括ケアシス  
テムの構築

2040年に向けて  
地域包括ケアシス  
テムの更なる深化



# 16-② 高齢者の社会参加（介護予防、孤立・孤独の防止）

## 「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」R7.7.25検討会

### （介護予防・健康づくり・介護予防・日常生活支援総合事業等）

介護予防等の取組や地域のインフォーマルな支え合いは重要であり、一般介護予防事業の中で実施する通いの場については、年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、誰もが一緒に参加し、認知症予防、多世代交流や就労的活動など、地域のニーズに応じた多様な機能を有する場として、地域共生社会の実現に向けて、発展・拡充させていく必要がある。

### 2025年までの介護予防・社会参加の取組

- 健康づくり施設の整備
- 通いの場「いきいき百歳体操」の充実
- 通いの場「認知症サロン」の充実
- 老人クラブの活動（校区登園など）
- ふれあい食事サービスの実施

#### 【課題】

- 健康づくり施設の利用者の固定化
- 通いの場の選択肢が限定的
- 魅力的なプログラムが不足



### 選択肢の拡大



### 2040年に向けた方向性

健康づくり・活動の場を地域展開

高齢者が選択できるメニューの充実

民間市場の多様な主体の参入を促進

身近に通える「元気になる拠点」づくり

# 17 地域で展開すべき多様な活動内容の例

分類	想定される活動内容	
運動	<ul style="list-style-type: none"><li>・いきいき百歳体操</li><li>・ストレッチ体操</li><li>・脳トレ</li><li>・運動器機能訓練</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ガンバルンバ体操</li><li>・ヨガ</li><li>・コグニサイズ</li><li>・入浴 + 健康体操</li></ul>
栄養	<ul style="list-style-type: none"><li>・食事会</li><li>・栄養教室</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・料理教室</li><li>・口腔教室</li></ul>
社会参加	<ul style="list-style-type: none"><li>・カラオケ</li><li>・おしゃべり</li><li>・趣味活動</li><li>・茶話会、食事会</li><li>・レクリエーション</li><li>・e スポーツ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生涯学習 (健康、栄養、認知症、人生会議、機能訓練などの講座)</li><li>・担い手 (配膳などのお手伝い)</li><li>・地域活動</li></ul>



高齢者にとって多様で魅力的なプログラムを地域で展開していくことが必要

# 18 公民館におけるeスポーツの実証実験（令和7年度）

令和7年度 姫路市デジタル・ディバイン対策事業



シニア向け  
**スマート教室**

スマホの使い方を楽しく学べます  
今回はeスポーツ体験もできます  
ぜひご参加ください！

日時 5月23日(金)  
10:00～12:00

場所 英賀保公民館  
荒川公民館

【お問い合わせ】  
高齢者支援センター 079-221-1564



# 19 デジタル掲示板（令和7年度）

## 1 事業目的

高齢者自身が身近にある関心の高い情報を、簡単に取得できるよう、高齢者向け地域情報掲示板サービスとしてWEBサイト（ひめまっぷ）を開設し、地域コミュニティへの参加を促進し、認知症予防のさらなる強化及び社会的孤立の解消を図る。

## 2 事業概要

WEBサイト（ひめまっぷ）上のマップやカレンダーを確認することで、身近な地域でのイベントや活動情報を簡単に閲覧することができる、地域にある掲示板のデジタル版を提供する。

## 3 試行運用

### (1) 試行期間

令和7年10月から令和8年3月まで

### (2) 試行内容

現在、家島地域で試行運用を開始。



# 20 フレイル予防アプリと「ひめさんぽ」

## 1 事業目的

スマートフォンの介護予防アプリを導入し、高齢者の介護予防と生きがい増進を図る。

## 2 事業概要

高齢者自身が好きなタイミングや場所で、楽しく、気軽にフレイル予防や認知症予防の取組に参加できるよう、歩数計測や脳トレなどの外出のきっかけや認知症予防に効果がある機能を有したスマートフォンアプリを導入。

また、アプリの利用実績やイベントへの参加等に応じて、ポイントを付与することでアプリの利用継続を促すとともに、ポイントは電子マネーに交換し、スマートフォンで決済できるようにすることで、デジタル・ディバイドの解消につなげる。



# 21 まとめ（今後の高齢者施策について）

「地域包括ケアシステムの更なる深化を実現するために」

## （通いの場について）

通いの場については、認知症予防、多世代交流や就労的活動など、地域のニーズに応じた多様な機能を有する場として発展・拡充させていくことが重要。

- ・健康づくり・活動の場を地域展開
- ・高齢者が選択できるメニューの充実
- ・民間市場の多様な主体の参入を促進
- ・身边に通える「元気になる拠点」づくり

## （老人クラブについて）

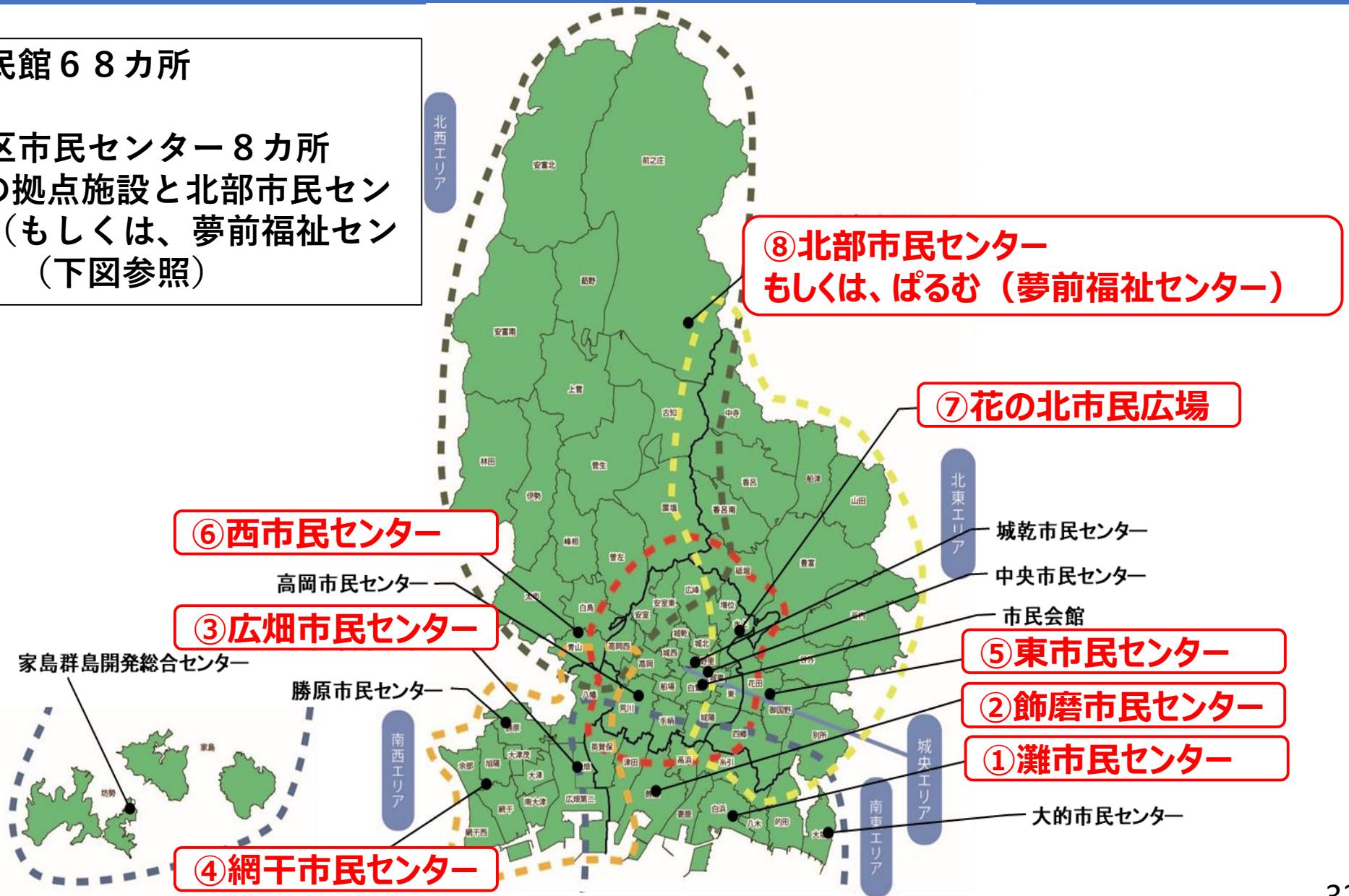
「地域包括ケア」の取組においても老人クラブの存在は非常に重要。

- ・生きがい・健康づくりに加えて、地域の高齢者の居場所づくり・孤立防止や、環境美化や防犯・防災、まちづくりなど多様な分野で貢献
- ・すべての活動が社会参加となり介護予防に効果
- ・地域における生活支援の担い手としての重要な役割

# 21 まとめ（通いの場として想定される地域の公共施設の例）

●公民館 68 力所

●地区市民センター 8 力所  
7つの拠点施設と北部市民センタ  
ー（もしくは、夢前福祉セン  
ター）（下図参照）



## 21まとめ（通いの場における高齢者の選択できるメニュー例）

活動内容	想定される活動場所
(運動)	
・いきいき百歳体操 ・ガンバルンバ体操 ・ストレッチ体操	・ヨガ ・脳トレ ・コグニサイズ
・運動器機能訓練	市民センター（8か所）、公民館（68か所） 特別養護老人ホーム（50か所） サービス付き高齢者住宅（59か所）
・入浴 + 健康体操	スポーツクラブ、フィットネスジム
・入浴 + 健康体操	楽寿園（梅ヶ谷町） ゆたりん（林田町） エコパークあぼし（網干区） 入浴施設（民間）
(栄養)	
・食事会 ・栄養教室	・料理教室 ・口腔教室
市民センター（8か所）、公民館（68か所） ドラッグストア	
(社会参加)	
・カラオケ ・茶話会、食事会 ・eスポーツ	・おしゃべり ・レクリエーション ・生涯学習
市民センター（8か所）、公民館（68か所）	
・担い手（配膳などのお手伝い） ・地域活動	特別養護老人ホーム（50か所） グループホーム（38か所） 通いの場（580か所） 老人クラブ（353クラブ）

## 21 まとめ（老人クラブの活動について）

### 「老人クラブの活性化のため取り組むべきこと（案）」

取組むべき事項	検討が考えられる内容
・老人クラブ会員数の増加	・老人クラブ設立要件の見直し ・助成金の見直し
・活動に参加する人の促進 ・生活支援の担い手という役割の強化	・活動に対するインセンティブの付与
・高齢者福祉施策のより効果的な実施	・一層の連携、情報交換を実施し、高齢者の的確なニーズ把握を実施するとともに、老人クラブを通じて高齢者施策を普及する。

3

1  
第1回懇話会  
について

2  
老人福祉センター  
事業について

3  
子育て支援施設  
について

**子育て支援施設について**

# 3階 子育て支援施設について

子育て支援の核となる施設として、

- ・市内7か所の地域子育て支援拠点(ひろば)の統括、拠点事業研修会、利用者支援員連絡会
- ・子育て情報の発信(ホームページ「わくわくチャイルド」・子育てガイドブック発行)のほか、以下の事業を実施している

## すこやかひろば事業

- ・すこやかひろば
- ・子育て講演会、子育て講座

11,799人  
(78.4%)

## 利用者支援事業

- ・子育て相談
- ・子育て情報の提供

983人  
(6.5%)

## ファミリーサポートセンター事業

- ・会員登録、マッチング
- ・会員向け講習会

419人  
(2.8%)

## 子育て学習センター事業

- ・全8回のプログラム×3期(各コース20組定員)

1,854人  
(12.3%)

令和6年度合計利用者:15,055人

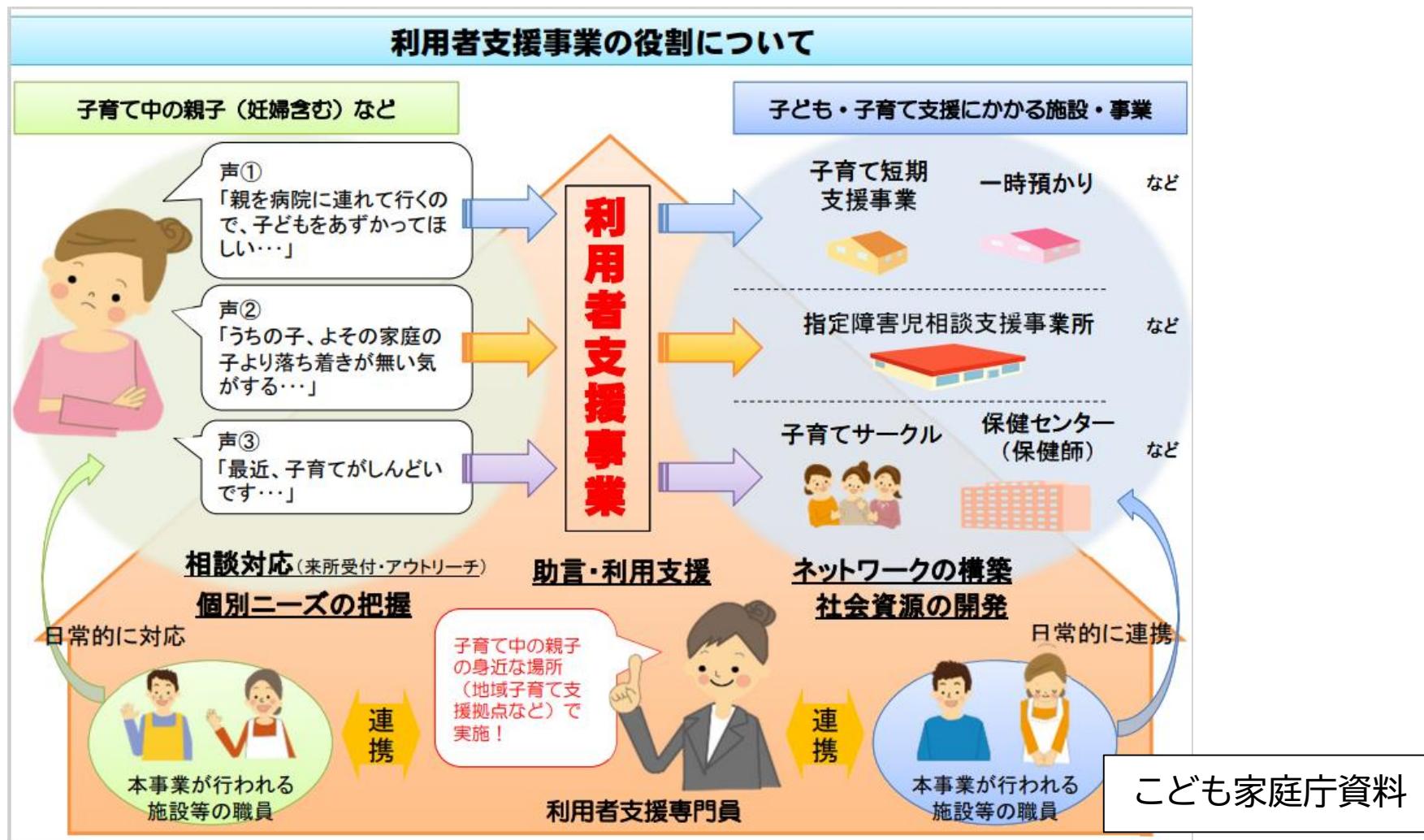
# ひろば事業について



子育て親子が気軽に集い、交流しながら自由に遊べるように、遊戯室等を開放。

- ・ 子育て中の親子が気軽に利用できる交流の場
- ・ 子育てについての不安や悩みなどの相談
- ・ 地域の育児や子育てに関する情報の提供
- ・ 子育てに関する講座

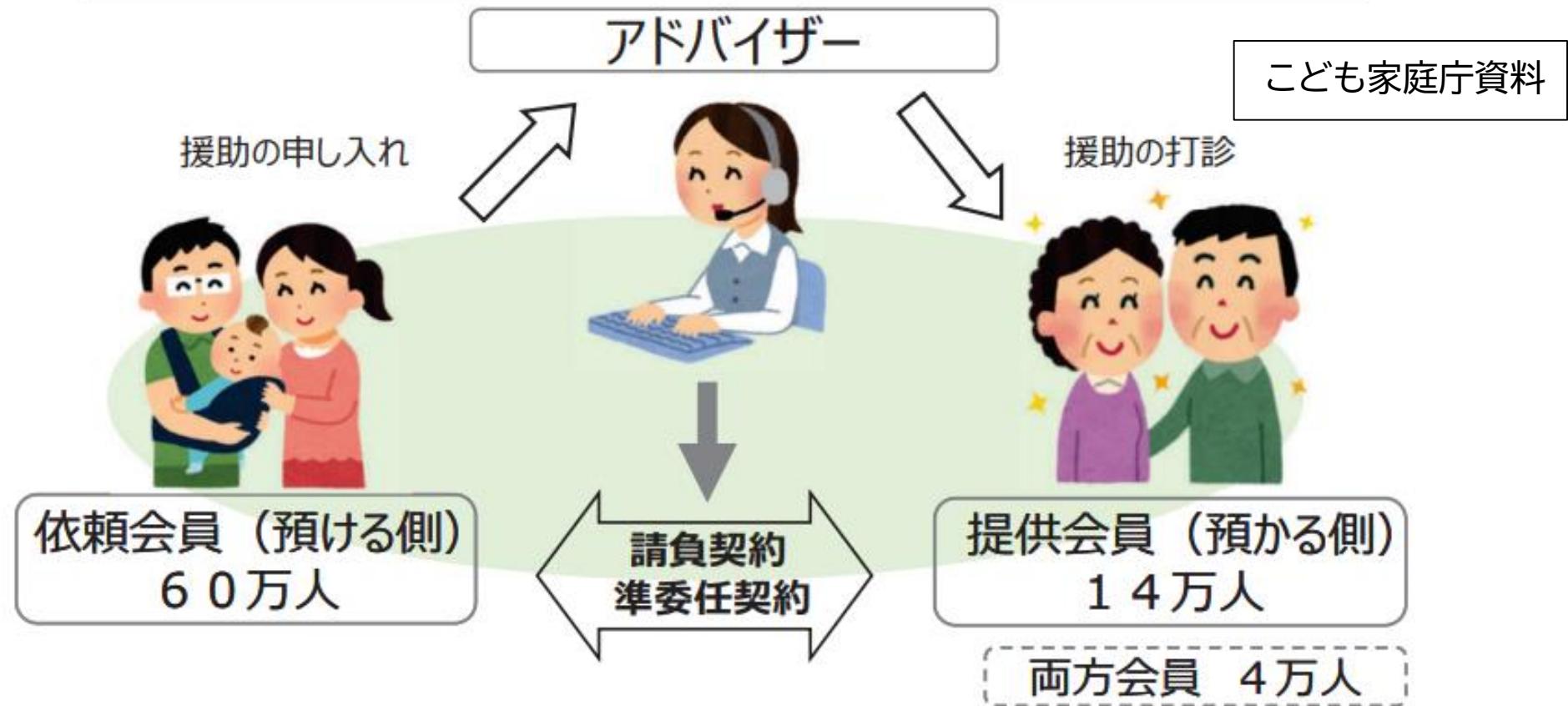
# 利用者支援事業について



子育て家庭や妊産婦が、教育・保育施設や地域子ども・子育て支援事業、保健・医療・福祉等の関係機関を円滑に利用できるように、身近な場所での相談や情報提供、助言等必要な支援を行うとともに、関係機関との連絡調整、連携・協働の体制づくり等を行う。

# ファミリーサポートセンター事業について

## ファミリー・サポート・センター【相互援助組織】



育児の援助を受けたい依頼会員と、育児の援助を行いたい提供会員(有償ボランティア)が、会員同士で育児の援助を行う地域の子育て支援システム。

# 子育て学習センター事業について

## 学ぶ・知る

子育てに必要なヒントや親として  
知っておきたいことを学びます。



食育講座



どんなおはなしかな

幼児安全法



グループタイム



## 遊ぶ・体験する

子どもと一緒に季節の行事や手遊び  
わらべうたなどを楽しみます。

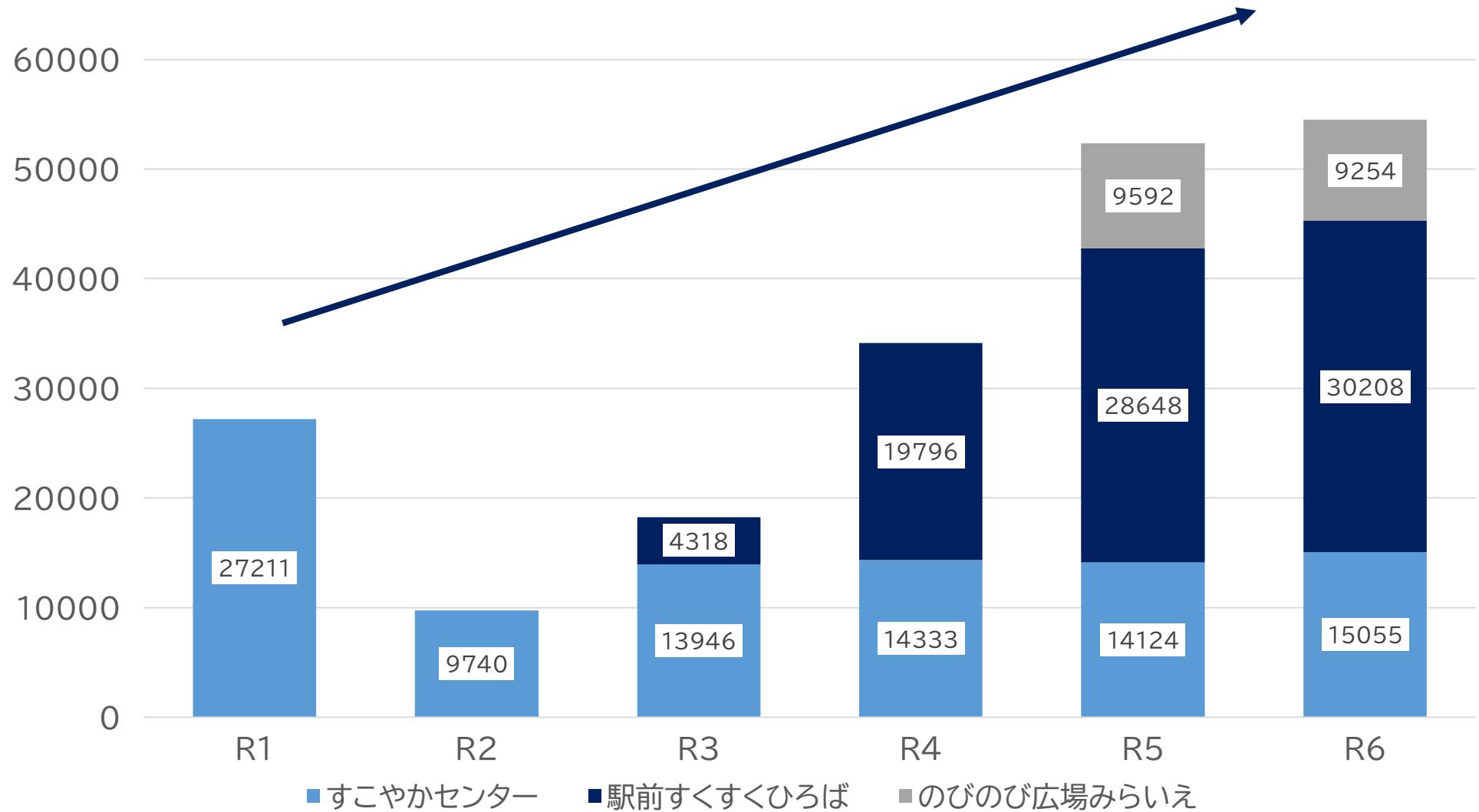


身近にある材料を使い  
製作をして遊びます



3ヶ月間、親子でさまざまな行事に参加し、親子のふれあい遊びや季節の行事を体験したり、講話等を通して子育てに必要な知識を学ぶ。

# 3階 子育て支援施設について



すこやかセンターを含む、市内中心部での利用は増加傾向にある